

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	○主体的・対話的で深い学び、学び合いの重視 ○ＩＣＴ機器の効果的な活用の推進	中間評価		最終評価	
環境作り		○授業のユニバーサルデザインを意識した学習環境作り ○児童が認め合い、高め合える温かい学年学級経営				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）		課 題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語						
	算数						
学年	教科	学習状況の分析（4 月）		課 題（4 月）	改善のための取組（4 月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	学「書くこと」では、8 割の児童が自分の思いを簡単な文で書くことができる。しかし、長音、拗音、促音、撥音を正しく使えていない児童がいる 学ひらがなやカタカナについてはおおむね定着している。ただ、書き順や字の形が上手に取れない児童がいる。漢字の読みはどの児童も十分に定着しているが、漢字の書き取りは児童によって定着のばらつきがある。 学学習への意欲は高い児童が多いが、集中して学習に向かう姿勢が取れない児童が一定数いる。	○「書くこと」については、順序や内容をよく考えて書き、配当されている漢字を文や文章の中で使えるようにする。 ○「漢字・言語」では、正しい筆順で丁寧に文字を書く指導が必要である。 ○「話すこと・聞くこと」では、人の話を最後まで静かに聞く姿勢を身に付けさせる必要がある。	○文を書いたら、必ず読み直しをする習慣を身に付けさせる。 ○週 1 回、日記を家庭学習で取り組ませる。 ○授業では話し手の目を見て話を聞かせることを徹底する。他の教科等においても意識させる。 ○毎日ミニ漢字テストを行い、間違えたものについては練習させる。 ○デジタルドリルをこまめに活用し、正しい書き順を身に付けさせる。			
	算数	学ノートの書き方については、定着しているが、自分の考えを図や言葉で説明することが難しい児童もいる。 学時計の読み方はおおむね理解している。数量感覚が乏しく、繰り上がり繰り下がりの計算が難しい児童が数名いる。	○筆算では、定規を使い、位取りに気を付けて計算させるようにする。 ○図や絵などを用いて自分の考えを表現できるようにする。	○毎時間授業始めに 5 分間計算タイムを設け、技能の定着を図る。 ○自分の考えを言葉で発表できる場を積極的に設ける。友達の考えを説明させ、表現する練習を意図的に取り入れる。			
3	国語	調国語全体の正答率が、区・全国ともに平均を下回っている。 調漢字の読みと書き取りは約 9 割の児童が定着している。しかし、漢字の書き取りについては全国平均より、3. 1 ポイント下回っている。 調説明文の読み取りは、全国平均を 4. 2 ポイント上回っている。さらに、物語の読み取りについては、1 2. 6 ポイント上回っている。 学学習への意欲は高い児童が多いが、集中して学習に向かう姿勢が取れない児童が一定数いる。	○漢字のとめ、はね、はらいの部分や書き順などの細かい部分や、漢字を文章の中で使うことを丁寧に指導する必要がある。 ○発言して自分の考えを説明することが苦手な児童がいるので、段階的に指導を行い発表することに慣れさせる。	○漢字小テストを定期的 to 実施し、基準に満たない場合は再テストを行う。 ○日直の 1 分間スピーチを朝の会等を利用して行うなど、話す機会を意識して作っていく。 ○漢字の読み書きや言葉の使い方など、デジタルドリルを使って習熟を図る。			
	算数	調算数全体の正答率が、区・全国ともに平均を下回っている。 調長さ・かさは、全国平均を 9. 2 ポイント下回っている。 調かけ算の計算の正答率は、全国平均をやや下回っているが、かけ算九九の正答率は、全国平均を 4. 1 ポイント上回っている。 学学習意欲は高い児童が多いが、数量感覚や既習事項の定着度は児童によって大きく開きがある。	○数量感覚を身に付け、それを応用する力を伸ばしていく必要がある。 ○計算ミスや単位の書き忘れなどの単純な間違いを減らすため、見直しをする習慣を付けさせる必要がある。	○実際に図ったり比べたり、児童が量感を実感できる算数的活の時間を増やす。 ○東京ベーシック・ドリル、家庭学習などで基礎・基本の定着を図る。 ○隙間時間などにデジタルドリルを行い、習熟を図る。			
4	国語	調領域「書くこと」の正答率は全国平均より、約 8 ポイント下回っている。 学漢字の宿題に意欲的に取り組んでいる。しかし漢字小テストの書き取りでは、字形について誤りがあり、今後十分に身に付けさせる必要がある。	○指定された文字数や段落構成数に基づき、自分の考えを書くことができるように指導する必要がある。 ○漢字についての意欲が高まっているので、今後は筆順や字形にまで注意を向けさせて、力を伸ばしていく。	○毎週末の日記の宿題等で文字数やテーマを決めて、書く活動に取り組ませる。 ○領域「書くこと」の単元では、自分の考え等を明確にすることや段落構成を考える時間を設定する。 ○漢字小テストにおいて 8 割に満たない児童に再テストや裏面を活用し、何度も書き取りを行う。 ○隙間時間などにデジタルドリルを行い、習熟を図る。			

	算数	調「数と計算」領域の正答率は全国・区の平均より、約 8 ポイント下回っている。 学用具の操作に苦手意識を感じる児童がやや多い。 学自分の考えをノートに書いたり、発言したりすることに苦手意識を感じる児童がいる。	○基本的な計算をミスせず、見直しも含めて確実に計算するように指導する必要がある。 ○「図形」領域では、コンパスや三角定規などの用具の操作方法を丁寧に指導する必要がある。 ○自分の考えを様々な表現で書いたり、ペアや少人数グループで考えの交流を深めたりする力を伸ばす必要がある。	○「数と計算」領域の単元に取り組む際にはレディネステスト等を活用しながら、既習事項の定着を図る。東京ベーシック・ドリルを活用し、四則計算の習熟を図る。 ○コンパスや三角定規を扱う際には使用手順を毎時間確認する。また授業の「学習のめあて」を定規で毎回囲ませるなど用具操作を身近にする。 ○1 学期は問題解決的な授業の際に友達の考えをノートに書かせて、様々な表現方法を学ばせる。2 学期以降は交流の時間を確保し、自分の考えをペアや少人数グループで話したり、友達の考えを聞いたりする。 ○毎時間デジタルドリルを活用し、四則計算の定着を図る。		
5	国語	調領域「我が国の言語文化に関する事項」については全国及び新宿区の平均より 7 ポイント近く低い。 調領域「読むこと」については、国及び新宿区の平均よりやや低い。授業中、文章を正確に読むことはできるものの、内容を捉える力がまだ十分に身に付いていない状況がある。 学漢字の学習では学習意欲は高いが、字形のバランスや、はね、止め、はらいなどを正確に書こうとする意志が弱い傾向がある。また、授業中、話者の方を向いて最後まで話を聞くことができる児童もいるが、注意散漫な児童もいる。	○相手を意識し、適切な敬語を使って、敬語の理解、定着をする必要がある。 ○文章を読み、必要な情報を読み取る力を伸ばす必要がある。 ○字形のバランスを整え、止め、はね、はらいなど正確に書くことや、話者の方を向いて最後まで話を聞く力を伸ばす必要がある。	○クラスの前で、話す時間を朝の会などで設定し、身近な話題を通して、聞く楽しみを味わわせ、聞く態度を育てる。1 学期の内に、相手を意識した文の作り方や話し方について練習する時間を設ける。 2 学期以降は、状況に応じて、教師だけでなく、保護者や他の先生との交流の時間を設定し、話したり、聞いたりできるようにする。 ○毎日の授業で、新出漢字を学習する際に、筆順、とめ、はね、はらいや字形について指導し、練習する時間を設ける。 ○隙間時間などにデジタルドリルを行い、習熟を図る。		
	算数	調授業中、課題を解くことは容易にでき、算数や計算を得意にしている児童が多いが、どの観点においても新宿区の平均より 1 ～ 7 ポイント低く、特にデータの活用では正答率が 5 割を切っている。 学問題を解き、答えを出すことができるが、自分の考えを表現することに苦手意識があり、表現方法がやや乏しい児童がいる。	○正確に情報を捉え、解決することや、量感を伴った理解を深める必要がある。 ○多様な方法で考えを表現し、説明できるように指導する必要がある。	○実際に図ったり、比べたりして、児童が量感を実感できる生活に根差した算数的活動の時間を増やす。また、課題解決の過程では、児童に学習到達時のゴールイメージをもたせるよう、授業作りをする。 ○友達の考えを読み取ったり、自分の考えに取り入れたりできるよう、交流する場面を充実させる。 ○授業時間の中で、デジタルドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。		
6	国語	調領域「書くこと」の正答率は、全国平均より 0.3 ポイント下回っている。指定された長さで文章を書いたり、段落の役割について理解し、2 段階構成で文章を書いたりする設問に無解答の傾向が見られた。 学授業中の関心・態度を見ると、集中して話を聞くことができる。話の内容を目的に応じて捉え、文章にまとめる力が、まだ十分に身に付いていない状況である。	○伝えたい思いやそのときの様子を思い出して、言葉を選んだり、並べ方を変えたりするなど工夫して書く力を伸ばしていく必要がある。 ○どのような言葉を遣い、どう配列すれば読む人の考えを動かすことができるかを吟味することができるよう指導する必要がある。	○週 1 回、新聞記事を読み、自分の意見や提案を書くため、情報を集め、分類したり関係付けたりするなど吟味し検討させていながら書く力を身に付け、スモールステップで励ましていく。 ○他者と思いや考えを交流する中で、自分の考えを広げたり、深めたり、新しい視点を見つけたりする時間を 1 時間の中で設定しながら感性をみがいていく。 ○単元終了時、デジタルドリルを活用し、基礎基本の定着を図っていく。		
	算数	調領域「変化と関係」の正答率は、全国平均より 0.7 ポイント下回っている。領域「データの活用」の正答率は、全国平均より 27.8 ポイント上回っている。合同な三角形を作図することに誤答傾向が見られた。 学課題に対して、自分の考えをノートに書くことができる。自分の解き方や考え方を図や式・表・言葉などを使って説明や発表する力がまだ十分に身に付いていない状況である。	○問題解決の過程を重視し、自分の考えを表現するだけではなく、他の人の考えを解釈できる力を伸ばしていく必要がある。 ○既習事項を活用して、式だけでなく、言葉や図で自分の考えを表すよう指導する必要がある。	○解き方を文章化したり、友達に伝えたりすることによって、理解を確かなものにしていく。「全員が他者に分かりやすく説明できるようになる。」という課題のもと、自分の言葉で説明できるよう学習に取り組ませていく。 ○授業構成の中で「既習事項を活用・本時の課題スタート 5 分」「伝え合い教え合い 3 5 分」「成果の振り返り・全員達成ラスト 5 分」を充実させ、児童同士の交流を通して課題を全員達成させ理解を確かなものにしていく。 ○授業終了前 5 分間、デジタルドリルを活用し、四則計算の基礎基本の定着を図る。		
音楽	学表現と鑑賞の両領域において、学習指導要領における〔共通事項〕（音楽を形づくっている要素、音楽の仕組み）を使って、音楽のよさや面白さ、美しさを自分の言葉などで伝える力が身に付いていない状況である。	○音楽を聴いて、聴き取り感じ取ったことをもとに、音や音楽のよさや面白さ美しさについて、根拠をもって自分の言葉などで説明できる力を養う必要がある。	○すべての学習活動において、学習の中心がどの〔共通事項〕に当てはまるのか、言葉のヒントなどを活用し、児童の言葉の引出しを増やしていく。			

図工	学 学 つくりだすことに興味を持ち、表現を楽しみながら学習活動に取り組むことができる。	○友だちの作品や表現を見たり、交流したりするなかで 自分のつくりだしたものをさらに工夫したりするなど学習の深化を図ることが必要である。	○授業のなかで相互鑑賞できるよう展開や場の設定を工夫する。 ○授業の目標を明確にし、多様な授業内評価の方法を設定する。		
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。